

球技において生徒自らが課題を発見して

合理的な解決をする力を育てる第1学年保健体育科学習指導

～ タグ活動と連動した振り返り活動の工夫を通して ～

所属機関 田川市立教育支援センター
所属校 田川市立猪位金中学校
職・氏名 教諭・郡 鳶 南

1 主題設定の理由

(1) 現代社会の要請から

令和4年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査報告書では、児童生徒のスクリーンタイムは増加傾向が続いており、小・中学校男女ともに運動習慣の改善が求められている。慢性的な運動不足は、体力・運動能力の発達にも影響を及ぼすことが考えられ、令和4年度調査における体力合計点は、令和3年度調査に続き低下する結果となった。

また、保健体育の授業に関する調査結果から、保健体育の授業を楽しんでいることで、運動が好きという意識を育み、生涯にわたり、主体的に運動やスポーツに取り組む姿勢を持つことにつながるとされている。

つまり、保健体育の授業を楽しんでいることができれば、運動習慣の改善につながり、児童生徒の体力に向上につながる。同報告書では、保健体育の授業が楽しくなるためには、友達との交流機会の増加や個々の発達段階、発達ペースに見合った学習活動を取り入れることが有効であると示されている。

本研究は、タグ活動と連動した振り返り活動の工夫をすることで、生徒自らが課題を発見して合理的な解決をする力を育てるものであり、その活動を通して達成感や楽しさを感じさせることができると考え、本主題を設定した。

(2) 生徒の実態から

本学級の生徒は運動意欲の高い生徒である。しかし、集団競技のゲームなどでは、全員が参加した作戦会議などの交流活動が十分にできておらず、チームプレーができないことが多い。この原因は、課題を発見したり解決したりする力が低いからだとする。これらの力が低いことによって、作戦を立てたりチームの課題を発見したりするなどの交流活動にチーム全員が参加できずに、チームプレーができないことにつながっている。

本研究では、チーム全員が参加した交流活動ができるようにするために、課題を発見したり解決したりする力を高めさせる学習活動として、タグ活動と連動した振り返り活動を取り入れることで主題に迫ることができると考える。

2 主題の意味するもの

(1) 主題の意味

「課題を発見」とは、運動の行い方や仲間との関わり方、チームの攻防の仕方など、自分やチームの課題を見つけることである。

「合理的な解決をする力」とは、発見した課題に応じて運動の行い方や攻防の動き方を考えたり、様々な練習方法の中から適切な方法を選択したりするなどの力のことである。

「合理的な解決の力」を高めるためには、「課題を発見する力」と「学習した知識を活用する力」が必要であるとする。

(2) 副主題の意味

「タグ活動」とは、体験の直後に、チームで話し合いを行い、失点した原因や攻撃が失敗した理由など、チームの課題を付箋に書き、協議する交流活動のことである。

「振り返り活動」とは、タグ活動で出されたチームの課題をふまえて、その解決方法を考える、授業の最後に行う交流活動のことである。

「連動」とは、「タグ活動」で出されたチームの課題を「振り返り活動」で解決方法を協議し、次のゲームにつなげる一連の活動のことである。

3 研究の目標

生徒自らが課題を発見して合理的な解決をする力を育てるために、タグ活動と連動した振り返り活動の工夫を通して、課題を発見したり学習した知識を活用したりする力を高める体育科学習の在り方を究明する。

4 研究の仮説

体育科学習において、チームで活動する教材や教具と振り返り活動の2つの手立てを工夫した、タグ活動と連動した振り返り活動をすれば、課題を発見したり学習した知識を活用したりする力が高まり、生徒自らが課題を発見して合理的な解決をする力を育てることができるようになるであろう。

5 研究の構想

「課題を発見する力」を高めるタグ活動と「学習した知識を活用する力」を高める振り返り活動を連動することで「課題を解決する力」を高めると考える。これらを連動することで、ゲーム中に書いた付箋を活用しながらチームの課題の解決方法を考えることができる。タグ活動で書いた付箋は、具体的な場面を想起することができ、作戦の例示を参考にしながら「この場合は、こう動くべきだった。」「こういう場面に弱いからこういう練習が必要だ。」など多くの視点で課題の解決方法を考えることができる。

このように、タグ活動を振り返り活動と連動すると、発見した情報が鮮明な課題に応じて、学習した知識や技能の中から適切な解決方法を考えることができることから、「課題を解決する力」を高めることができると考える。

6 研究の実際

(1) 検証授業Ⅰの指導の実際

単元名「バレーボール」(E 球技 イ ネット型)

ア 手立ての工夫について

チームで活動する教材や教具の工夫では、ルールとワークシートの工夫をした。具体的支援の工夫では、役割の設定と作戦の例示をした。

イ タグ活動

本時では、バレーボールの10点マッチ、6 v s 6のゲームの中で、どちらかのチームが3点を失点する毎に失点したチームがタグ活動を行った。失点したチームがタグ活動を行っている間、得点したチームは簡易的な作戦会議を行う時間とした。全てのチームが1回以上のタグ活動を行うことができた。

ウ 振り返り活動

1 ゲーム終了後、個人の振り返り活動を3分間行い、その後、チームで振り返り活動を7分間行った。個人の振り返りでは、各自振り返りができており、その後のチームでの振り返り活動でも、自分の考えを発信することができていた。

エ 検証授業Ⅰの考察

各チーム、チームの課題を発見することができていた。また、課題の内容も、体験した瞬間の場面や感情など、タグ活動ならではの課題を出すことができていた。このことから、タグ活動は「課題を発見する力」の向上に効果的であった。

一方、振り返り活動では、個人の振り返りを行ったことで自分の考えをもって交流活動ができたものの、各チームで出た解決方法は、解決方法としては不十分である抽象的な表現が多かった。これは、正しい書き方を生徒が認識できていなかったことや、考えを深堀できるような時間を十分に確保できなかったことが原因である。

これらの改善策として、正しい書き方を示したりワークシートに工夫をしたりすることと、「課題を発見する時間」と「課題の解決方法を考える時間」の2単位時間で単元計画を立てることが必要だと考える。

以上のことから、検証授業Ⅰで行った「タグ活動と連動した振り返り活動の工夫」は、「課題を発見する力」を高めるためには効果的であったものの、「課題を解決する力」を高めるためには効果的であったと判断が難しかったと言える。

(2) 検証授業Ⅱの指導の実際

単元名「バスケットボール」(E 球技 ア ゴール型)

ア 手立ての工夫について

チームで活動する教材や教具の工夫では、ルールとワークシートの工夫をした。具体的支援の工夫では、役割の設定と作戦の例示をした。

イ タグ活動

本時では、バスケットボールの9分、5 v s 5のゲームの中で、3分経過する毎に両チームがタグ活動を1分間行い、全てのチームが3回タグ活動を行うことができた。

ウ チームの課題を発見する活動

ゲーム終了後、個人でチームの課題を考える活動を3分間行い、その後、チームでチームの課題を発見する活動を12分間行った。個人の活動では、各自振り返りができていた。その後のチームでの振り返り活動でも、各々が自分の考えを発信することができており、チームの課題を発見することができていた。

エ 振り返り活動

個人の振り返り活動を5分間行い、その後、チームで振り返り活動を10分間行った。各チーム、自分のチームの課題に応じて解決方法を考えることができていた。その後、ゲームで実践する作戦を一つ選ぶ交流活動を5分間行った。

オ 検証授業Ⅱの考察

各チーム、チームの課題を発見し、解決方法も考えることができていた。また、解決方法の内容も具体的に考えることができていた。このことから、タグ活動と連動した振り返り活動は「課題を解決する力」の向上に効果的であったと考える。また、検証授業Ⅱでは、「タグ活動」と「振り返り活動」を1単位時間毎に行ったが、はどちらも十分な時間を必要としたため、1単位時間の中で、課題を発見し、解決方法を考えることは難しいと考える。

以上のことから、検証授業Ⅱで行った、2単位時間で行う「タグ活動と連動した振り返り活動の工夫」は、「課題を解決する力」を高めるためには効果的であったと考える。

7 成果と課題

(1) 成果

検証授業後、本学級の生徒に行ったアンケート調査では、

①「運動が好きである。」という問に対して「そう思う」「少しそう思う」と回答した生徒は変わらず100%だった。

②「体育が好きである。」という問に対しては「あまりそう思わない」「そう思わない」と回答した生徒は0名であり、4名(17%)が肯定的な考えに変わった。

③「チームで競技をするとき、チームの作戦会議や反省会に参加している。」という問に対して「あまりそうは思わない」「そう思わない」と回答した生徒は、19%であり、9人(46%)が肯定的な考えに変わった。

④「チームで競技をするとき、チームがよりよくなるための方法を考えている。」という問に対して「あまりそうは思わない」「そう思わない」と回答した生徒は、8%であり、6名(32%)が肯定的な考えに変わった。

これらの結果から、検証授業ⅠⅡを通して、課題を発見する力や課題を解決する力が高まったことが分かる。このことから、課題を発見したり解決したりする力を高めるために、タグ活動と連動した振り返り活動の工夫は有効だったと考える。

(2) 課題

課題としては、アンケートの問②③④の否定的な回答者数が減少したものの、問③④においては、まだ否定的な回答をした生徒がいることである。交流活動では、自分の考えをもっていても、技能が高い生徒の意見に流れてしまう傾向にあり、自分の考えを伝えられない生徒がいる。そのため、全員が自分の考えを発信できるような交流活動の仕方を知ることや雰囲気づくり、また、考えを深掘りできるような知識や思考力を身に付けさせたり高めさせたりすることが必要であると考え。

<参考文献>

- ・ 中学校学習指導要領解説保健体育編 文部科学省
- ・ 令和4年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査報告書 スポーツ庁
- ・ 文部科学省中央教育審議会初等中等教育分科会
資料2 子どもを取り巻く環境の変化を踏まえた今後の幼児教育の在り方について
第4節 子どもの育ちの現状と背景 文部科学省
- ・ 動画でわかる! 運動嫌いがゼロになる! 子どもが考えて楽しむ体育ゲーム
小溝 拓 学陽書房